

令和6年度  
霧島市議会 議会運営委員会  
行政視察報告書



犬山市議会 議場にて

令和6年7月9日（火）～11日（木）

（岐阜県可児市・愛知県犬山市）

# 議会運営委員会行政視察

1 視察日程 令和6年7月9日(火)～11日(木)

2 視察先及び視察内容

大阪府和泉市

※航空機欠航で便を変更したため視察を行えなかった。

(1) 岐阜県可児市

視察内容 議会が政策提言や政策立案する機能の強化について  
議員間討議など議会審議の活性化について

人口 99,821人(令和6年7月1日現在)

面積 87.6km<sup>2</sup>

議員定数 22人

(2) 愛知県犬山市

視察内容 政策提言サイクルの構築について  
議員間討議など議会審議の活性化について

人口 71,425人(令和6年7月1日現在)

面積 74.97km<sup>2</sup>

議員定数 20人

3 参加者

委員長 山口 仁美  
副委員長 宮内 博  
委員 久木田 大和  
委員 今吉 直樹  
委員 竹下 智行  
委員 阿多 己清  
委員 木野田 誠  
委員 有村 隆志  
委員 下深迫 孝二  
副議長 前島 広紀



可児市議会 視察説明

## 4 視察概要

■ 7月10日（水）午前10時～ 岐阜県可児市

視察内容 議会が政策提言や政策立案する機能の強化について  
議員間討議など議会審議の活性化について

### 【岐阜県可児市議会】

※視察資料は 可児市議会ホームページに掲載あり

#### 議会基本条例の制定

- ・可児市議会では、市民の信頼に応え、活力ある議会活動を行うために、「可児市議会基本条例」を平成24年12月に制定。条例には、委員会代表質問や調査機関の設置、議長・副議長の立候補時の所信表明などに関する規定が含まれる。
- ・災害時の議会对応や議会BCP策定についての規定も追加された。

#### 議会運営の効率化

- ・タブレット端末の導入により、議会関連資料のペーパーレス化や議会運営の効率化を実現。
- ・スケジュール管理、ファイル管理、災害時の情報収集などを効率的に行えるようになった。
- ・予算審査時には、重点事項及び対前年度比で増減が多かったものを中心に簡潔な質疑ができるようにしている。

#### 議会改革の推進体制

- ・議会運営委員会の承認の下、有志の議員によるPTを設置し、調査研究を行い、特別委員会で結論をまとめる手法が定着。
- ・議会活性化特別委員会を設置し、外部の専門家からアドバイスを得ながら調査研究を実施。
- ・議会報告会で市民から意見を聴取し、議会改革に反映させている。
- ・陳情・請願の審査においては、参考人招致の形をとっている。
- ・議選監査委員は、定例会ごとに報告をしている。（事前に監査委員会で了解を得た事項）

#### 政策サイクルについて

- ・民意を反映する政策タイムラインとして、4つの政策サイクルを構築している。

##### ①議会運営サイクル

議長マニフェストを掲げて課題に取り組み、議長職の交代前には引き継ぎ事項を確認することで次期議長は必然的に課題に取り組む体制（委員会も同様）

##### ②予算・決算審査サイクル

予算・決算委員会における決算審査で全会一致の項目を政策提言・提案として市長に提出、その提言反映結果が議会に報告され、予算審査に臨む。

##### ③意見聴取・反映サイクル

議会報告会や地域課題懇談会、各種団体との懇談会で意見を集約し、議会では所管事務調査として検討し、一般質問や政策提言に結び付け、その結果を次年度の議会報告会などでフィードバックする。

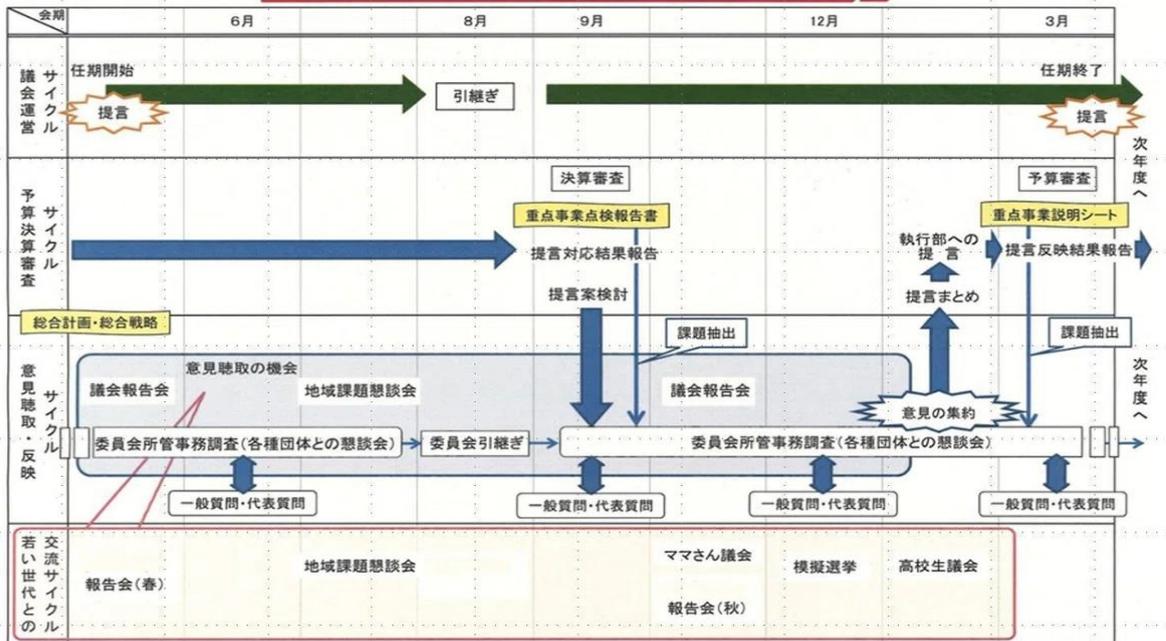
##### ④若い世代との交流サイクル

ふるさと発展に寄与する人材育成を目的に議会として若い世代を重視した取組、高校生のキャリア教育支援や高校生議会、地域課題懇談会、模擬選挙など。

委員会代表質問は、一般質問とは別に行い、一般質問通告より早い期限としている。

## 可児市議会 4つのサイクルアニュアルプラン

### — 民意を反映する政策タイムライン —



### 議会の情報発信

- ・ 議場にモニターを設置し、議会のインターネット中継を開始するなど、ICT化を推進
- ・ 議会基本条例の施行状況を検証するプロジェクトチームを立ち上げ、議会運営の見直しを議員間で議論

### 議会の監視機能の強化

- ・ 飯田市の事例を参考に、議会が執行機関の活動を監視・評価する「議会の責務」を条例に規定、決算を起点に予算の審査を充実する予算決算審査サイクルを構築している。
- ・ 各常任委員会で所管事務の行政評価を実施し、必要に応じて提言を行う取組を行ない、また委員会代表質問

議会運営の効率化、改革推進体制の確立など、多角的な取り組みを通じて議会改革を推進し、市民の信頼と活力ある議会を目指している。

その他、予算・決算審査では主要事業の説明シート等を活用し、基礎情報を共有することで質疑に掛かる時間を短縮するなど、効率化の工夫をしている。

## ■ 7月11日(木) 午前10時～ 愛知県犬山市

視察内容 政策提言サイクルの構築について  
議員間討議など議会審議の活性化について

### 【愛知県犬山市議会】

犬山市議会は、平成22年に議会改革推進委員会を設立し、議会の透明性や市民とのコミュニケーションを強化し、幅広い分野での改革を進めている。

議会が受け身で十分機能していない場合が多く、もっと積極的になるべきとの視点から、現在は、「権限を最大限発揮できる議会」を目指し、以下の取組を進めている。

- ①「市民参加」（市民のニーズ、意見を吸い上げる場を増やす）
- ②「議員間討議」（議員同士で議論し「議会として」物事を決める）
- ③「政策立案・政策提言力の向上」（議員間討議を提案につなげる）

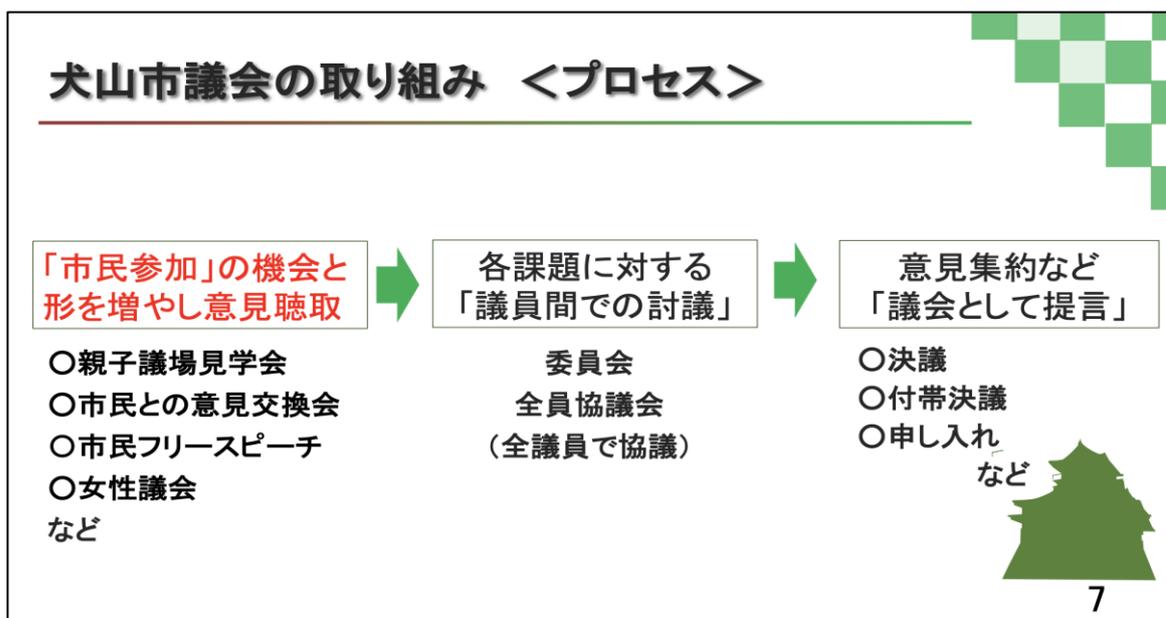
政策サイクルのプロセスとして、

- ①「市民参加」の機会と形を増やし意見聴取（市民との意見交換会、フリースピーチ等）
- ②各課題に対する「議員間での討議」（委員会や全員協議会での議員間討議）
- ③意見集約など「議会として提言」（決議、付帯決議、申入れ等）
- ④申入れ等に対する当局の回答や実際の取組状況確認。

※令和5年度から、上記①～④のサイクルを回している。

その他、各常任委員会の所管事務調査及び委員長報告後に、全員協議会での議員間討議、申入れを行っている。

具体的な内容として、



#### 1. 市民参加の取組

- ・親子議場見学会、市民との意見交換会、市民フリースピーチ、女性議会などの取組をしている。
- ・市民のフリースピーチ制度を導入し、市民目線の「犬山モデル」を実現している。
- ・なお、フリースピーチは、条例上の根拠はなく、発言者も市民のみを対象としており、発言内容は全員協議会や委員会での議員間討議を通して、議会の対応や協議結果をホームページで公表している。議会基本条例において、陳情は市民（市民以外の提出も可）からの政策提案として位置づけており、受理した陳情は所管の常任委員会に送付し、委員会で陳情者の趣旨説明の機会も設けている。委員会における審査結果を陳情者に返答している。

#### 2. 議員間討議

- ・定例議会中に全員協議会を開催し、一般質問及び上程議案の内容等を協議する議員間討議を行っている。
- ・常任委員会での討議の場を設けている。

(例) 議案説明及び議案質疑(1議案ごと) ⇒ 議案に対する討議 ⇒ 討論 ⇒ 表決

- ・「提案・検討・実施・評価」は委員会を中心に議論され、執行部に申し入れを行う場合は、委員会の意見を全員協議会での議員間討議を通して、全会一致の意見を申し入れしている。

### 3. 議会・委員会からの提言

- ・決算・予算審議との連動について、9月定例議会の各常任委員会において、前年度決算の審査を踏まえて、翌年度予算編成に向けての委員会の意見を取りまとめ、委員長報告をしている。その後、全員協議会で改めて各常任委員会の意見を議員間討議し、全会一致の意見については、議長から執行部に申し入れをしている。

---

## ■ 委員長 山口 仁美

### 【和泉市】

大阪府和泉市には事前資料の送付など、ご配慮をいただいておりますが、出発予定の飛行機のトラブルにより、行政視察が叶いませんでした。和泉市の関係者の皆様には、急な変更にもかかわらず、快くご理解をいただき、大変感謝をしております。

### 【可児市】

今回の視察においては、霧島市議会の議長諮問事項である「政策サイクルの構築」を中心に、岐阜県可児市議会については、委員会中心での切れ目のない政策サイクルに大変感銘を受けました。合議体である議会としての意思を明確に示していくための議員間討議のあり方。また、流れ別に四つの政策サイクルとして整理された政策提言のフロー図は大変分かりやすく、市民に向けて議会の役割を説明する際にも非常に役立つのではないかと感じました。一つ一つの作業が、つながり感を持ち、取りこぼしのないように進められていくことは非常に重要だと感じますので、本市でもフロー図の作成をしながら、議会の意思表示の方法やタイミング、その流れの中で、どこを重点的に強化していくのか、どの流れをスムーズにしていきたいか整理していきたいと思っております。

### 【犬山市】

犬山市議会においては、全員協議会や委員会など全会議の原則公開などの情報公開の取組や Facebook の活用、議会からの情報発信、議員間討議の活発化、正副議長選の立候補制や所信表明演説の導入など様々な違いなども、しっかり整理されており、市民から見ても多様な参画機会として捉えてもらえるのではないかと感じました。そこで拾い上げた声を議会という組織として、スムーズに処理するために、段階を追った政策サイクルが展開されており、委員会を中心としてタイミングよく政策提言をしておられることや、「市民の代表としての意思表示」を行うことを重視し、詳細な審査をあえて必要とされていないという回答から、限りある時間の中で議会運営するスピード感や優先順位の付け方については、本市でもあらためて協議していく必要があると思っております。本市議会でも、各委員会と連動した動きを模索中ですが、多様な市民から見て魅力的な参画機会を作り出し、議会・委員会としての役割をより効率的に発揮できる仕組みを構築したいと思っております。



---

## ■ 副委員長 宮内 博

今回の行政視察は、7月9日大阪府和泉市、10日岐阜県可児市、11日愛知県犬山市の予定であったが、出発前に予定されていた航空機が機体故障により欠航となり、鹿児島空港で長時間におよぶ待機を余

儀なくされた。その結果、和泉市での調査を断念せざるを得ず、10日の可児市、11日の犬山市のみの行政視察となった。

### 【可児市】

可児市議会では、議員の政務活動費を活用した市民アンケートを令和3年3月に実施し、「市議会に関心がありますか」、「議会改革を進めるために取り組むべき課題は何か」について、市民の意見を聴き、その回答から、「市民の意見を聴く機会の充実」、「広報広聴機能の充実」、「議員の資質向上」などに取り組んでいた。可児市議会は、議会基本条例に、「常任委員会を代表し、所管事務調査に関する質問をすることができる」と明記しており、常任委員会では、年2回実施される市民との意見交換会で出された意見や議員による一般質問を委員会調査に位置づけ、その結果を基に、委員会で全会一致となった問題について、常任委員会を代表して質問ができるというユニークな議会運営が行われていた。その質問は、一般質問の前に行われ、常任委員会を代表して質問した議員は、他の議員と同じく一般質問もできるという事であった。決算審査では、決算委員会で出された意見を次年度予算に反映させるために委員会で提言をまとめて執行部に提出し、次年度の予算委員会でそれが反映されているかを確認しているとの報告もあった。議長や副議長、各常任委員会の委員の任期は1年であることから議長マニフェストや議会の課題、各常任委員会の継続課題については、引継ぎが行われ、議長や委員会の継続課題として議論がなされているとの事であった。「任期を1年ではなく、2年交代にしてはどうか」との意見もあるようであった。情報通信技術の活用では、令和5年度より一人1台のタブレット活用が始まっており、「できるところから一步一步取り組んでいる」との事であった。可児市議会で行われている常任委員会や決算委員会による提言と、その後の執行部への進捗状況の確認など、霧島市議会にも活かすべき取組であった。



### 【犬山市】

犬山市議会は、令和2年5月から通年議会を導入している。また、令和3年2月からタブレット端末も導入していた。若い世代の選挙への関心につなげることを期待した親子議場見学会や市民フリースピーチ、公募による「いちにち女性議員」による女性議会なども開催していた。フリースピーチでは、市内の県立高校2校に全議員が出向いて意見交換会も実施していた。女性議会で出された質問と答弁の内容は、市議会だより臨時特集号で市民に周知しているとのことであった。

また、女性議会に参加した4名の方が、その後行われた市議選に立候補し、2名が当選しているとの報告もあった。通年議会の開催により、「新型コロナウイルス感染症対策として実施された国の施策を専決処分ではなく臨時議会開催により議案処理できたことは大きな成果と言える」との報告もあった。毎月1回行われる全員協議会では執行部から報告が行われ、フリースピーチで出された市民からの意見をもとに、議員間討議も行われているようであった。犬山市は、2023年に市議選が行われているが、その投票率が「47.31%」、可児市でも「37.57%」との報告があった。どの議会でも政治や議会への市民の関心

が低く、霧島市も例外ではない。犬山市議会が実施している学校を訪問しての若い世代との意見交換会や多様な意見交換会の実施、議会の政策立案による執行部への提言など、霧島市議会でも参考にした取組が求められている。

## ■ 委員 久木田 大和

### 【可児市】

市民アンケートの結果から市民の議会に対する意識が低いことから議会改革を進めてきたという取組について説明を受けたが、全体の中でどのように市民の意見を反映していくかという視点にたってそれぞれの取組を行っていることが強く感じられた。決算を基にした予算提案のサイクルは来年度予算に前年度の決算結果を反映させるとともに提言を全会一致で市長へ提案することや、毎年の改選の際の議長、委員会の引継ぎ事項をシステム化し、取り組みを中途半端にならずに継続していく仕組み作りは本市でも活用できると感じた。また、重要事業説明シート、点検報告書を活用した予算・決算審査について、内容については詳細に書かれており、執行部の負担も大きくなるが審査の効率化、トータルでの執行部の負担軽減につながっているとのことで、今後導入していくべきであると感じた。

また、今回、可児市の状況を確認した中では霧島市議会において同様に取り組んでいる事案もたくさんあり、良い点についてはさらにブラッシュアップさせていきたい。

### 【犬山市】

二元代表制である議会の権限を最大限発揮できるようにする議会運営に取り組んでおり、市民ニーズ、意見を吸い上げられる仕組み作りに取り組んでいた。親子議場見学会、市民フリースピーチ、女性議会など、市民の方が議会を身近に感じてもらえるような取組は見習う点が多くあると感じた。また、議員間討議が機能して充実しており、一般質問や上程議案等に関して時間をとって意見を集約し、議会としての提言に繋げている仕組み作りは為になった。全議員で意見交換、及び討議を行うことにより議員間の十分な討議が図られ議会としての提言が活発化していくこと、また、議員間討議のテーマについても幅広く取り上げているとのこと。犬山市においても決算委員会から予算編成への申し入れの流れが作られており、決算委員会のタイミングや内容について本市でも検討を行い市民の意見を反映できる議会に向けて取組を進めるべきだと視察を通じて感じた。



## ■ 委員 今吉 直樹

### 【可児市】

私は、可児市議会の政策提言サイクルに注目しました。可児市議会の政策提言サイクルの仕組みを一言でいえば、「決算審査による予算編成への提言」であります。次年度の予算編成に提言を反映させるためには、決算審査の結果をスピーディーに提言にまとめ、執行部に提出する必要があります。可児市議会では、そのための工夫として、決算審査や予算審査は特別委員会を設けずに、常任委員会単位で決算審査や予算審査を行っています。これにより、各委員会が所管する予算における議員間討議を活発に行い、委員長を中心に政策提言をまとめることが可能となっているようです。また、所管する予算の重点事業の詳細についての「重点事業点検報告書」や「重点事業説明シート」が執行部より提出されているため、重点事業の重要性と進捗状況が分かりやすくなるとともに、事業の理解と透明性を高めています。また、他に

も、委員会代表質問など本市議会では行っていない制度を組み込み、政策提言サイクルを構築し、それを毎年回している点は大変参考になりました。

### 【犬山市】

犬山市議会の視察で最も印象的だったのが、全員協議会を非常によく活用している点でした。霧島市議会においても全員協議会は行われますが、その主な目的は、執行部からの説明や事務局からの説明、報告を「受ける」あるいは「確認する」ことにあるように思います。一方、犬山市議会では、全員協議会を議員間討議の重要な場として位置付け、議員自身の気になる議案や政策について意見を述べたり、他議員の意見を求めたりしており、これが議会活動の活性化に大きく寄与しているようです。全員協議会を通じて議員同士が自由に意見交換を行い、市民からの提案や政策課題について深く議論しており、このプロセスにより、議会全体での合意形成が進み、政策提言の質が向上しているものと理解しました。さらに、犬山市議会の政策提言は、可児市議会同様、委員会を中心に行っている点は非常に興味深いものでした。議員個人の気づきを委員会の政策資源として活用し、議員間討議を経て議論を深め、執行部へ申入書（提言書）を提出しています。また、決算審査は特別委員会を設けずに、委員会ごとに所管の決算審査をしているため、決算審査と議案などの審議を連動して議論することができ、より効果的な政策提言が可能となっているようです。

### 【まとめ】

可児市議会及び犬山市議会の事例を参考に、霧島市議会においても委員会を中心とした政策提言サイクル構築と議員間討議の活性化を行うことで、本市議会の機能強化に繋がり、更なる活性化を進めることが可能であると感じました。委員会や全員協議会での積極的な議員間討議により議会活動の活性化に取り組んでいくことが望ましいと申し添え、行政視察報告書とします。



## ■ 委員 竹下 智行

### 【可児市】

可児市議会では、過去の一般質問において、明確な答弁が得られなかった事項を委員会で精査し代表質問をしている。一般質問は各議員の権利だと思うが、執行部との質問と答弁が議場だけのものになっていると感じることがある。議員が連携し意思統一し、行政へ訴えていくことは重要なことだと思う。委員会は一年交代になっている。本市は委員会でじっくりと課題に取り組むために二年間の任期になっていると理解しているが、一年間の任期であれば四年間の任期で多様な委員会を経験することができ、広く見識を深めることもできると思う。可児市では投票率が下がってきていることもあり、可児市議会では市民に議会や議員に対するアンケートを実施している。内容を見るとかなり厳しい市民のご意見もある中、議会改革をするためにも市民の声を聴き、改善しようとする強い意志が見られる。市民に開かれた議会を目指し取り組んでいることを学ぶことができた。

### 【犬山市】

犬山市議会では2020年5月から会期を1年の通年議会とし、議会の判断で必要に応じて会議を開いている。執行部の専決処分を減らし、



チェック機関である議会の承認を得る体制の構築のためには有効な方法であると思う。市民のニーズ、意見を吸い上げる場を増やすために公募による女性議会の開催や市民フリースピーチ、市内の県立高校に出向いて意見交換会等を実施している。市民に近い議会を目指し、市民の声を吸い上げる機会を多く持ち、議会が市民にとって近い存在になることは重要なことである。私たちは最初の議員研修で「議場は神聖なる場である」との説明を受けたが、議場に多くの市民が気軽に足を運べ、市民にとってもっと身近な議会になってもよいと思う。議場で市の方向性が最終的に決められる場であることを市民にも関心をもってもらうことが、私達議員にとっても更に緊張感を持って仕事に向き合うことに繋がると思う。

## ■ 委員 阿多 己清

### 【可児市】

可児市議会では、議会報告会は春と秋の2回であるが、別に地域課題懇談会、ママさん議会、高校生議会なども開催し、若い世代からの意見等の吸い上げが行われている。また、予算決算審査サイクルを確立し、委員会代表質問なども導入し、積極的な議会改革がなされていた。予算審査では、重点事業説明シート、決算審査では重点事業点検報告書を当局が作成し提出を受け、それに基づき審査が行われているが、委員会での質疑は事前通告制を採用していた。説明シートや点検報告書には詳細な内容まで記載してあるため、質疑は極力提言に向けての内容に限り、なされていると聞き、とても驚いた。本市での導入は、現時点では困難だと思うが、可児市議会に少しでも近づけたいと思った。決算審査を経て次年度予算に向けての提言が行われている。提言項目は、決算審査、分科会等での検討も含め、最終的には全会一致により4項目程度にまとめられている。本会議での採決では、反対討論のあった議案以外のものは、一括で簡易表決で行われており、人事案件も簡易表決が多いと聞き、スムーズな議会運営、時間短縮につながっていると思った。

### 【犬山市】

犬山市議会では、議会基本条例の検証、フリースピーチ制度の導入、タブレット端末の導入、通年議会の導入など、いろいろと改革への取組が行われていた。また、権限を最大限発揮できる議会にすべきとして、市民のニーズ、意見を吸い上げる場を増やすことや議員同士で議論し「議会として」物事を決めること、議員間討議を経て政策提言につなげることを基本方針に掲げられており、議会が積極的に行動していると感じた。常任委員会では、自由討議を行い、毎年テーマを定めて、所管事務調査として取り組む一方、決算審査の際も討議を行って、決算を踏まえて新年度予算に向けた意見として当局に提言している。

流れとしては、各常任委員会の所管事務調査 → 委員長報告 → 全員協議会での議員間討議 → 申し入れとなっている。

本市での取組の参考としたい。最後に1日目に予定していた大阪府和泉市議会については、航空機の欠航により便を変更したため到着が遅れ、訪問できなかったが、可児市、犬山市は予定通り訪問できた。

2市議会とも、議会基本条例を基にして、議会報告会の開催や議会広



報紙の改善、会議のライブ放送、タブレット端末の導入とペーパーレス化などの取組も含めて、幅広く議会の活性化に取り組まれていた。また、今回の一番の目的であった政策提言サイクルについては、それぞれの特色を活かして進められており、いろいろと勉強になった。

本市での取組への参考とし、今後の議会活動等に活かしていきたい。

---

## ■ 委員 木野田 誠

### 【可児市】

視察テーマ

(1) 議会の政策提言や政策立案する機能の強化について

(2) 議員間討議など議会審議の活性化について

政策提言サイクルの全体的な流れや政策立案等を強化する具体的制度や取組については

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| 1. 議会運営サイクル     | 議長引継、委員会継続課題等  |
| 2. 予算決算審査サイクル   | 重点事業点検報告書      |
| 3. 意見聴取・反映サイクル  | 地域課題懇談会等、議会報告会 |
| 4. 若い世代との交流サイクル | 高校生議会、ママさん議会   |
- の4つの議会サイクルを活用している。

### 【犬山市】

視察テーマ

(1) 政策提言サイクルの構築について

(2) 議員間討議など議会審議の活性化について

通年議会を導入し権限を最大限発揮できる議会を目指している。

1. 市民参加 市民のニーズ、意見を吸い上げる場を増やす。
2. 議員間討議 議員同士で議論し、議会として物事を決める。
3. 政策立案・政策提言力の向上 議員間討議を提案につなげる。



議員間討議の結果として市議会としての提案がより活発になった。

- ・当初予算を修正可決し不要な事業をなくした。
- ・条例を改正した。
- ・国・県・市に対し議会の意見を伝えた。
- ・市民の意見を議会でまとめ申し入れた。
- ・付帯決議で市に対し議会の提言を伝えた。

---

## ■ 委員 下 深 迫 孝 二

1日目 7月9日(火)

訪問予定地： 大阪府和泉市議会

鹿児島空港から飛行機で伊丹空港に向かう予定が機材トラブルのため9時出発が13時30分発となり訪問できず、2日目の訪問地岐阜県可児市へ移動、ホテルに19時着。

2日目 7月10日（水）

訪問地 : 岐阜県可児市

視察目的: 議会による政策提言や政策立案機能強化について  
議員間討議と議会審査の活性化について

可児市議会では、議会改革のために平成23年2月に市民アンケートを実施した。対象は20歳以上の市民2,000人で、回収数は810（回収率40.6%）である。アンケートの結果、市議会に関心がない市民が、36.7%、議員の活動内容を知らない市民が64.2%という厳しい現状が明らかになり、議会改革の必要性が再認識された。

この結果を受けて、以下の課題に取り組むことが求められている。

- ・市民の意見を聞く機会の充実
- ・議員の資質向上
- ・議員活動の見える化
- ・議会の政策提言や政策立案機能の強化

議論の充実を図るために、一般質問議案質疑については、一問一答方式と一括質問一括答弁方式のどちらかを選択できるようにし、通告の際に選択することが可能である。また、予算・決算の審査は議員20名で構成され（議長・監査委員を除く）、決算審査によって次年度の予算編成への提言を行っている。

可児市議会を視察し感じたことは決算審査を終えて次年度の予算に反映させることや本会議において自由討議が出来るように規定している点は参考になるのではないかと思う。



3日目 7月11日（木）

訪問地 : 愛知県犬山市議会

視察目的: 政策提言サイクルの構築について  
議員会討議など議会審議の活性化について

犬山市議会では通年議会を行っており、一般質問も全議員が行っている。

また一般質問や議案質疑後に全員協議会を臨時に開催し、答弁に納得できない場合は議員間討議で意見集約した後、提案につなげる。また委員会では議論を深めるため委員長判断で討議の場を設けられるようにしている。

犬山市議会を視察して感じたことは、通年議会を開催している点は、本市も閉会中委員会審査をしているので扱っている議案の数の違いなのではないかと感じた。優先順位をつけてスピード感を保ちながら適切にできているのか、そこの実効性をどの様に担保しているのか確認してみる必要があると感じた。また女性議会を開催しているとのことで本市においても大いに参考にすべきと感じた。

## ■ 委員 有村 隆志

### 【可児市】

可児市議会では、議会改革を早くから取り組んできたが、平成12年とその5年後にアンケート調査を行い、アンケートでは、広報広聴の充実、議会活動、議員活動の見える化などの課題から、市民から信頼される議会となるため、4点について改革を進められそのなかの一つが、議論の充実として、ICTの活用で委員会資料確認が迅速化、また委員会の開催前に委員間での意見交換や認識を深めてから、委員会の開催に挑むようになる。さらに市民福祉の向上のためにサイクルアクションプランを作成、予算決算審査サイクルにより、当初予算への執行部への提言を行う。また議員の一般質問をさらに深掘りして、委員会で所感事務調査を行い、執行部の明確な回答にするために、委員会の代表質問を行えるよう基本条例の改定を行う等が続けられる。今回、可児市で確認出来た四つの視点の取組は市民の声に応える大きな力になる仕組みだと思ふ。議会改革に終わりがなく、市民の皆様の声を常に反映するよう進めるべきと考える。



### 【犬山市】

多様な市民の声を議会に反映させようと議会改革の結果、通年議会に取り組み、その主な取組では、全員協議会が充実をされ、議員の一般質問に、執行部からの回答が不完全なものを全員で協議して執行部へ提言、また委員会からの提言も取り組まれておられる、他にも多くの取組をされておられた。通年議会を通しての議会活性化がうまく図られていた事は、今後は検討の必要性を感じる。今回の両市での行政視察では、詳しい明快な回答と丁寧な説明に感謝します。

## ■ 副議長 前島 広紀

### 【可児市】

視察日時 令和6年7月10日(水) 午前10時から

### 【視察テーマ】

- (1) 議会が政策提言や政策立案する機能の強化について
- (2) 議員間討議など議会審査の活性化について

### 【所感】

予算決算委員会は議長・監査委員を除く議員20人で構成されており、決算委員会は10月に行われていたが、10月では提言の内容が予算に反映されないとのことで9月に開催することになった。決算審査1、2回目で決算説明を聴き、審査3～5回目で提言につながる決算質疑を行い、分科会で提言検討を行い、審査6回目で提言をまとめ討論・採決が行われ、全会一致での提言が本会議場で市長へ通告されていた。さらに翌年3月議会の予算審査において、重点事業説明シートを活用して提言がどのように反映されたか質疑し、「提言反映結果報告」を9月議会初日に行うサイクルであった。決算(結果)から課題を捉え、その改善対策を提言し、その提言に対する行政の対応を検証するサイクルに議会の政策提言の

神髄を学んだ。

## 【犬山市】

視察日時 令和6年7月10日（木） 午前10時から

### 【視察テーマ】

- (1) 政策提言サイクルの構築について
- (2) 議員間討議など議会審議の活性化について

### 【所感】

■政策提言サイクルの全体的な流れについては、

- ①市民との意見交換会やフリースピーチなどで「市民参加」の機会を増やし意見を聴取。
- ②各課題に対する「議員間での討議」（委員会や全員協議会での議員間討議）
- ③意見集約など「議会として提言」（決議、付帯決議、申入れ等）
- ④申入れ等に対する当局の回答や実際の取組状況の確認

以上の①～④の流れとのことであった。

■議員間討議の活性化については

議員間討議は委員会と全員協議会で行い、本会議では行っていない。

■政策提言の提出方法については、全員協議会で議員間討議し、全会一致の意見については、議長から執行部に申入書を提出する。様式については、新年度予算編成に併せての申入書、所管事務調査に係る申入書などがある。提言提出後の対応については、議員が改めて一般質問で執行部の取組状況や成果などを質問し、委員会や全員協議会で、議員間討議の議題として、提案した政策の効果を評価しているという流れを学ばせていただいた。

以上、議会運営委員会の行政視察の報告とする。

霧島市議会議長 仮屋 国治 殿



### 議会運営委員会

委員長	山口 仁美
副委員長	宮内 博
委員	久木田 大和
委員	今吉 直樹
委員	竹下 智行
委員	阿多 己清
委員	木野田 誠
委員	有村 隆志
委員	下深迫 孝二
副議長	前島 広紀